

9/16 早稿

# 県内感染者の割合後遺症

## 30代以下 味覚、嗅覚障害多く

新型コロナウイルス感染の後遺症について県の第四波（三月一日～七月十九日）の調査で、二割が後遺症を訴えていることが十五日、分かった。中でも三十代以下で味覚障害や嗅覚障害の後遺症を訴える人が多い。

（長谷川寛之）

第四波の患者八百七十六人（うち百九十四人が調査に協力。各保健所が退院後四週間前後の身体面や心理面について聞き取り、百九十四人のうち三十七人（19

%）が「不調がある」と回答した。

この三十七人を年代別にみると、三十代以下が十七人、四十代が十人、五十代が六人、六十代以上が四人。三十代の十七人のうち十一人（64%）が味覚障害や嗅覚障害が続いていると答えた。障害は入院中からみられ、一ヶ月以上続くケースがあるという。

この日の県議会一般質問で佐藤正雄議員（共産党）の質問に答えた窪田裕行・

県健康福祉部長は「後遺症については、まだまだ不明な点が多い。専門機関を要する国に対して調査研究、治療法の確立を引き続き求めていく」とした。一方、福井市内の体育馆に設ける臨時病床（最大百床）の医師・看護師の体制について、窪田部長は五十分稼働で医師一人・看護師四、五人、百床で医師一人・看護師七、八人を交代制で配備すると説明した。臨時病床は主に軽症者を受け入れ、投薬などの初期治療を行つ。